

道 徳 科

令和7年度 授業改善のポイント

- 1 学習指導要領の目標に示されている学習活動（「道徳的諸価値について理解する」「自己を見つめる」「物事を多面的・多角的に考える」「自己の（人間としての）生き方について考えを深める」）を通して、児童生徒が主体的に道徳性を養う姿を想定した上で、授業を構想する。
- 2 児童生徒が物事を多面的・多角的に考えることができるよう、発問に対する児童生徒の発言や反応を予想した上で繰り返しや揺さぶりの発問をあらかじめ用意する。
- 3 道徳的価値についての理解を基に、児童生徒がこれまでの生き方を振り返ったり、これからの生き方に希望をもったりする活動を充実させる。

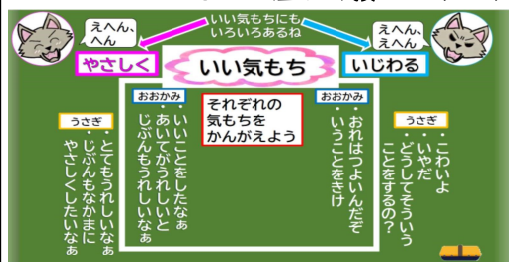
自己の生き方についての考えを深める授業づくり

【指導事例】「はしの 上の おおかみ」（小学校第1学年）[B(6)親切、思いやり]

道徳的価値	児童の実態把握	教材の効果的な活用
内容項目（「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること」） 学習指導要領解説に示されている内容項目(p28～p71)を参照し、道徳的価値の意義を理解して指導の考え方を明確にする。	自己中心的な考えから相手を思いやることのできない行動が見られる。友達など身近にいる人の考えや気持ちに気付かせ、温かい心で接することの大切さについて考えさせる必要がある。	おおかみが周りに意地悪をしたときと、くまに親切にされたときの、それぞれの気持ちを捉えさせた上で、その後くまのように周りに親切にするおおかみの姿から、温かい心で周りに接することの大切さについて考えさせる。

ポイント1 教師が指導の明確な意図をもち、主題設定につなげます。

【ねらい】 「くま」に親切にされた「おおかみ」の気持ちの変容について考えることを通して、意地悪をしたときよりも親切にしたときの方がずっと気持ちがよいことに気づき、身近にいる人に温かく接しようとする心情を育てる。



展開の中段から終末の展開例

うさぎに意地悪をしたときと優しくしたときの、おおかみの気持ちを考えましょう。

威張っていい気持ちになっていると思います。優しくしたからうれしくていい気持ちになったと思います。

あれ？ 威張っていても優しくしてもどちらも同じ「いい気持ち」なのですね？

うーん…威張っているときのいい気持ちは違うと思います。

優しくした方がずっといい気持ちだと思います。友達に優しくしたら喜んでもらえて私もいい気持ちになりました。

皆さんは人に優しくすることで、いい気持ちになったことはありますか。

妹がおもちゃを片付けていたので手伝ったら、すごく喜んでもらえて、僕もうれしい気持ちになりました。

けがをした友達を保健室に連れて行ったら「ありがとう」と言ってもらえて、いい気持ちになりました。

人に優しくすると相手も自分もいい気持ちになるのですね。

ポイント2

登場人物の心情などについて自分との関わりで多面的・多角的に考えられるよう、教師がねらいとする道徳的価値を押さえた上で、

- 考える必然性や切実感のある発問
- 思考を揺さぶる発問
- 自由な思考を促す発問
- 中心人物以外の視点からの発問

など、児童生徒の思考を促すような発問を用意することで問題意識や疑問などが生み出され、多様な感じ方や考え方が引き出されます。

ポイント3

児童生徒が、道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止められるよう、自分に置き換えて考えさせたり、日常生活や学校生活等を想起させる場面を設定したりするなどの工夫をします。

重要 これからの自己の生き方について考えを深めていくことができるように、個でまとめたり全体で議論したりする時間を十分に確保します。

これからは周りの人に対して、どんな気持ちを大切にして過ごしていきたいですか。タブレット端末に考えを記入しましょう。

僕はみんなに優しくしたいと思います。その方がみんながうれしくなるし、僕もいい気持ちになるからです。

ICT タブレット端末にタッチペン等で手書きしたり、ワークシートの記述を撮影したりして個の考えを共有することで、道徳的価値の理解を深めるにつなげることができます。